

### みちのくにライオンクラブ、今年も大好評

黄金週間の後半4連休となった3日から5日までの3日間、町内は「2008ひがしかわみちくさドライブラリー」に参加する家族連れでにぎわいました。

「くう、みる、はまる」をキャッチフレーズに、町内31カ所の食べどころ、見どころ、温泉入浴ドライブを楽しんでもらうお手軽行楽スタイル。今年で4回目を迎え、すっかりおなじみになりました。

初日の申し込みは350人にも達し、相変わらずの人気ぶりです。3日の初日、曇り空ながら穏やかな春の行楽日和に恵まれました。



スタート地点の道草館は、午前9時受け付け開始前から家族連れの列がずらり。最初にパスポートを発行してもらい、見どころ説明を受けたら、道草館前の焼き鳥コーナーで小腹を満たし「さあ、出発!」。さっそく1つ目のスタンプを押してもらった。

昨年からパスポート有効期間が3日間になっており、参加者はゆつくり余裕があるドライブが可能で

す。お孫さんと一緒にの3世代家族が町内あちこちに出没し、連休のにぎわいを見せていました。抽選会では旭川市内から訪れた会社員(47)と小学校4年生(9つ)の家族が、この日午前中にさっそく天人峡、旭岳温泉のペア宿泊券を引き当てました。

5月11日、東川ライオンズクラブ(小坂忠会長)が特別養護老人ホーム「羽衣園」、老人保健施設「ひだまりの里」でエゾヤマザクラの苗木を植樹しました。ライオンズクラブ創立30周年記念事業の一環として



始まり今年で4年目です。毎年10本ずつ植樹してきましたが、今回は樹高約2メートルの苗木25本を植えました。両施設の庭は、忠別川右岸の河川敷遊歩道緑地と一体となって広

5月10日、羽衣公園で外来種バチの「セイヨウオオマルハナバチ」を駆除する一斉捕獲、監視活動が行われました。東大保全生態学研究室(鷲谷いづみ教授)、大雪と石狩の自然を守る会(寺島一男会長)、上川支庁などが中心となって、今年3年目の活動です。約60人が参加しました。昨年は約1時間で306匹も捕獲成果がありました。今年の結果は約2時間です。道内各地のモニタリングから同研究室に届

「今年は何年に比べて花の咲く時期が早まってしまい、ハチの活動時期とサイクルがずれたのでは?」(同研究室) といはるものの、捕獲したハチのお尻には、しっかりと花粉ダングがついていました。今年のように出没数が少ない年も、ハチの振る舞いを調べるうえで大きな成果となったようです。午後からは上川支庁で参加モニタリングの監視活動報告会も開かれました。

### セイヨウオオマルハナバチの駆除、今年も少なめ

### ライオンズクラブ、今年もサクラの苗木植樹

### 旭岳でのALS山岳スキー救難訓練

4月25日から3日間、旭岳で(財)全日本スキー連盟(SAJ)の指導者研修会が開かれました。SAJ、スキーインストラクター約40人が参加し、山岳スキーの冬山遭難救助訓練を行いました。



旭岳温泉街で行ったビーコン操作訓練

員・北海道レスキュー研究会)も特別講師として出席しました。

雪中に埋もれた遭難者を救出するためには欠かせないビーコン操作の習熟訓練、昨年11月下旬、日本山岳会道支部11人が十勝岳連峰上ホロカメットク山で雪山氷雪訓練中、4人犠牲者を出した雪崩遭難

2007-2008冬季シーズン18回目の講習会。SAJの道内スキー講習会の中では唯一の山岳スキー講習として全国的にもモデル講習会になっています。

スノーシューを使って旭岳山頂付近まで登山し、ピステ、オフピステのコース滑走実技。さらに雪山救助訓練として、ビーコン、ゾンデの使用訓練も行いました。

講師には、札幌から訪れた朝倉雄二、小馬谷勤両SAJプロック技術員のほか、旭岳ビジターセンターネーチャーガイドの菊地基さん、三段山クラブ(上富良野町)代表の大河人史さん(北海道雪崩事故防止協会

### サスペンダー・ドラマの第1弾ロケ、今年も

昨年7月に放送したテレビドラマ「シロクマ園長命の事件簿」(テレビ東京系)道内はテレビ北海道で放映)の続編ロケーション撮影が町内各所で行われました。



キトウシ森林公園で

5月16日、キトウシ森林公園のポニー牧場で撮影開始しました。旭山動物園内という場所設定です。動物園長にふんする西郷輝彦さんと飼育員の子供が会話するシーンでは、エキストラ役の町民約10人も参加協力して、順調な撮影スタートを切りました。

津川雅彦さんら、多彩な顔ぶれです。撮影はその後、主要舞台となる旭山動物園、旭岳、天人峡、町内の農家のほか、旭川市役所、旭川東署、旭川市神居古潭、雪の美術館、美瑛町、上川町内など各地で約半月間をかけて行われました。放送は今夏の予定(未定)です。

### 満30年目の神饌田、豊穣願う伝統のお田植え祭

5月8日、東川町西2号北1、三田与志男さん(90)の北海道神宮神饌(しんせん)田で恒例のお田植え祭が行われました。

毎年10俵(1俵60kg)の「ほしのゆめ」を奉納しています。昭和54年、北海道神宮の神前に奉納する神饌米生産田として選定されて以来、30年目の節目という大事な米作りが

始まりました。

札幌から訪れた吉田源彦宮司ら神職の清めに続いて、式神楽、新潟地方に伝わる奉納舞いの流れをくむという「五穀ちらし」で豊穣を祈願しました。



赤い脚半姿の早乙女12人、烏帽子(えぼし)に白装束の介添え役の若者6人が水張りしたばかりの水田に素足で入り、ゆっくりとした雅楽のリズムで流れる田植え歌に合わせて、1本ずつ田苗を手植えました。例年になく速く雪解けが進んで好天続きの町内では、昨年より3日早い7日に田植えがスタートしました。